都立光丘 高等学校 令和６年度（３学年用） 教科　　地理歴史　　科目　日本史探究

教　科：　地理歴史　　科　目：　　日本史探究　　単位数：　　4　単位

対象学年組：第　3 学年　　1 組～　　6 組

使用教科書：（ 高等学校　日本史探究　第一学習社　　）

教科　地理歴史　　の目標：

【 知　識　及　び　技　能 】日本と世界との歴史について諸資料を活用する力や歴史的事象に関する理解力を育成する。

【思考力、判断力、表現力等】日本と世界の歴史について諸資料を基に多面的・多角的に考察し、自身の考えを表現する力を育成する。

【学びに向かう力、人間性等】持続可能な社会の実現に向けて現代社会の抱える諸課題を歴史的視点から解決する姿勢を養う。

科目　日本史探究　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解しているとともに諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を身につけるようにする。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当時数
	Ⅰ部　原始・古代 第1章　日本文化のあけぼの 【知識・技能】 ・人類文化の発症を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 【思考・判断・表現】 ・大陸からの稲作伝播の様子や地域性の顕著な道具の分布を踏まえて、弥生文化の形成を考察する。 ・小国が形成される過程を東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・原始社会の特色についての考察を踏まえ、時代を通観する問を表現する。	【指導事項】 1部　原始・古代 第1章　日本文化のあけぼの ・文化の始まり ・農耕社会の成立 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立と変容を、自然環境の変化や大陸との影響に着目して理解している。 ・水稲耕作の開始・金属器の伝来が弥生文化の社会に与えた影響を理解し、弥生土器などの出土品から得られる情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・考古資料をもとに、集落・風土・食生活の変化などに踏まえて旧石器文化・縄文文化の社会について考察し、表現している。 ・小国の形成から邪馬台国などの小国の連合について、環濠集落や武器の出現、「魏志」倭人伝などの文献資料にもとづき、国内外の情勢を踏まえて多角的に考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む】 ・日本列島における農耕社会の特色とともに、国家の形成につながるような社会構造の変化について考察することを通じて、弥生文化の特色を明らかにしようとしている。	○	○	○	3
	1部　原始・古代 第2章　古墳とヤマト政権 【知識・理解】 ・地域の首長の出現から統一国家に至る過程を、古墳の変容からとらえる。 ・ヤマト政権の権力争いや大陸文化の摂取に着目して、飛鳥時代を考察する。 【思考・判断・表現】 ・ヤマト政権による国家形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察する。 ・飛鳥文化に世界の諸地域の文化の影響が見られることを理解する。 【主体的に学習に取り組む】 ・古墳時代後期から終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	【指導事項】 1部　原始・古代 第２章　古墳とヤマト政権 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・国家の形成と古墳文化について、中国大陸・朝鮮半島との関係に着目して、小国の形成過程や古墳の特色を理解している。 ・推古天皇・厩戸王・蘇我馬子による政権運営や飛鳥文化の特色について、中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して理解している。 【思考・判断・表現】 ・中国の歴史書の記事、日本列島内外の金石文、小国の王墓の副葬品などをもとに、中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・仏教の受容や遣隋使の派遣などの大陸との交流について、資料をもとに考察した結果を、根拠を示して表現している。 【主体的に学習に取り組む】 ・中国大陸・朝鮮半島との関係などに着目して、小国の形成について考察することを通じ、古墳文化の展開とのつながりを見出そうとしている。				
	1部　原始・古代 第3章　律令国家の形成 【知識・理解】 ・律令国家が成立するまでの政治過程や国家統治体制について理解する。 ・律令国家の成立期に当たる白鳳文化の形成過程について理解する。 ・天平文化における政治性と国際性、国家仏教の展開などに着目して、古代国家の展開を理解する。 ・東アジアとの関係を踏まえて、唐風文化である弘仁・貞観文化を理解する。 【思考・判断・表現】 ・律令体制の完成期として奈良時代を、律令体制の状況を多角的・多面的に捉えて考察する。 ・平城京における政治動向について、土地政策を含めて考察する。 ・平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、体制の変質を考察する。	【指導事項】 1部　原始・古代 第３章　律令国家の形成 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・隋・唐など中国王朝との関係と政治への影響に着目して、東アジア情勢の変容と政治の関係、律令体制の成立過程などを理解している。 ・平城京における大宝律令・養老律令による律令体制の整備について、遣唐使の派遣や地方社会との関わりなどに着目して理解している。 ・隋・唐など中国王朝との関係と文化への影響などに着目して、律令体制の形成と密接に関連する仏教文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・天智朝・天武朝・持統朝の政治動向に着目して、律令体制整備の過程について考察し、表現している。 ・文献資料をもとに、藤原氏を中核とする政治抗争の進展と墾田永年私財法にみられる土地制度の変容を関連づけて考察し、根拠を示して表現している。 ・盛唐文化の受容を踏まえ、国史などの編纂や仏教美術の展開、仏教の興隆による鎮護国家の思想の誕生などについて考察し、表現している。				

1学期	第1部　原始・古代 第4章　貴族政治の展開 【知識・理解】 ・日本と東アジアとの関係において、民間の貿易や交流が中心となったことを理解する。 ・大陸文化の消化と末法思想を前提とした新しい貴族文化として、国風文化が展開されたことを理解する。 【思考・判断・表現】 ・藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察する。 ・摂関政治の在り方と文化の展開に、どのような関係があるかを考察する。 ・地方の反乱やその鎮圧など、武士の成長過程について、源氏などを例にとって考察する。 ・律令制にもとづく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。	【指導事項】 1部　原始・古代 第４章　貴族政治の展開 ・摂関政治 ・国風文化 ・地方政治の展開と武士 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・藤原北家が権力を掌握していく過程を資料から読み取り、律令体制の変容の観点から摂関政治を理解している。 ・大陸からの文物の定着を前提として、平安時代にはより日本の風土にあった文化が形成されたことを理解している。 ・地方の諸勢力の成長と影響などに着目して、律令制度の実態や地方における開発、治安の維持、荘園の発達などについて、その特色や変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・奈良時代の政治や平安初期の政治改革とも比較しながら、摂関政治の特色について考察し、根拠を示して表現している。 ・国際関係の変化や遣唐使の廃止などを踏まえ、浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達などに着目して、貴族の生活・文化の特色を考察し、表現している。 ・文献資料を活用して、国司の支配の変容と公領の変質、荘園の発達を踏まえて地方支配の状況を考察し、根拠を示して表現している。	○	○	○	25
	Ⅱ部　中世 第5章　院政と武士の躍進 【知識・理解】 ・院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ・政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について理解する。 【思考・判断・表現】 ・外戚関係や人材登用など、後三条天皇が摂関家に遠慮せず改革を進めた背景を考察する。 ・古代から中世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	【指導事項】 Ⅱ部　中世 第5章　院政と武士の躍進 ・院政の始まり ・院政と平氏政権 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・貴族政治や土地制度の変容などをもとに、諸資料から得られる情報を適切かつ効果的に調べてまとめ、古代から中世の国家・社会の変容を理解している。 ・平氏政権の台頭とその背景、宋との交易などについて、諸資料から様々な情報を読み取り、武士の政治進出について理解している。 【思考・判断・表現】 ・武士が台頭する契機や、この時期の土地制度の仕組みなどを考察し、古代から中世への時代の転換について根拠を示して表現している。 ・武家政権の権力基盤となる武士の土地所有に至る変化を考察し、歴史における土地の支配や所有がもつ意味について多面的・多角的に考察し、表現している。				
	Ⅱ部　中世 第６章　武家政権の成立 【知識・理解】 ・鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ・承久の乱にともなう公武関係の変化に着目して、将軍独裁体制から執権政治の確立に至る過程を理解する。 ・モンゴル襲来による政治・経済・文化への影響が、幕府の衰退につながっていくことを理解する。 ・庶民や武士の活動が活発化し、鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい気運が生まれたことを理解する 【思考・判断・表現】 ・鎌倉幕府の成立時期をめぐる諸説に関して、それぞれの根拠を明確にして考察する。 ・武士の生活と地方支配を通じて、土地に対する実質的な支配権を地頭が掌握するに至った過程を考察する。 ・非御家人に対する権限拡大など、幕府勢力が西国に浸透したことの意義を考察する。 ・伝統的な公家文化の世界で、有職故実・古典研究などの学問が進展した背景を考察する。	【指導事項】 Ⅱ部　中世 第６章　武家政権の成立 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・諸資料から情報を読み取り、源平争乱から鎌倉幕府の成立過程、幕府と朝廷の二元的支配構造、封建制度の成立などについて理解している。 ・承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 ・宋・元などユーラシアとの交流に着目して、モンゴル襲来の国際的な背景や国内政治への影響について理解している。 ・公武関係の変化やユーラシアとの交流などに着目し、鎌倉時代の宗教や文化の特徴について、諸資料から情報を収集して読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、根拠を明確にして表現している。 ・武家と公家の関係の変化が土地の支配に及ぼした影響を考察し、根拠を明確にして表現している。 ・鎌倉時代の生産の発達と商品の流通、東アジア情勢や国内での貨幣経済の発達とその意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・宋・元との交流の窓口や貿易の担い手などを視野に入れて、ユーラシアとの交流を多面的・多角的に考察し、表現している。				
	定期考査			○	○		1

	Ⅱ部　中世 第7章　武家社会の成長 【知識・理解】 ・武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化および、大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。 ・琉球・蝦夷ヶ島を含む東アジアとの交流が中世日本にもたらした影響について理解する。 ・諸産業の発達による庶民の台頭を踏まえて、中世社会の多様な展開を幅広く理解する。 ・庶民文化の萌芽や、応仁の乱を契機とした文化の地方伝播、戦国大名の保護による文化の地方普及を理解する。 【思考・判断・表現】 ・応仁の乱以降、地方権力として登場した戦国大名や各地に展開した都市について、諸地域の地理的条件と関連づけて考察する。 ・南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ・庶民の活動が社会秩序の変革の原動力として成長していったことを踏まえて、幕府の動揺や下剋上の風潮を考察する。	【指導事項】 Ⅱ部　中世 第７章　武家社会の成長 ・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・室町文化 ・戦国大名の登場 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・鎌倉幕府滅亡後の政治権力の推移と武家の関係、日明貿易の展開と琉球王国の成立などについて、諸資料から情報を収集して理解している。 ・諸産業や流通、地域経済が成長したことに着目し、諸資料から情報を読み取り、庶民が台頭して村などの自治的な単位が成立したことを理解している。 ・経済の進展や各地の都市や村の発達、東アジアとの交流などに着目して、室町時代における多様な文化の形成や融合について理解している。 ・守護大名と戦国大名の権力の相違点などについて諸資料から情報を読み取り、戦国時代の大名による領国経営の特徴を理解している。 【思考・判断・表現】 ・南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や、東アジアの国際情勢の変化とその影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・自治的な村の単位や一揆の組織が成立した要因と背景について、地理的な条件や流通など経済活動との関わりを多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		27
	Ⅲ部　近世 第8章　近世の幕開け 【知識・理解】 ・織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について理解する。 【思考・判断・表現】 ・大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ・新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ・中世から近世への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	【指導事項】 Ⅲ部　近世 第8章　近世の幕開け ・織豊政権 ・桃山文化 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流に関する諸資料から情報を読み取り、織豊政権の特色や貿易・対外関係について理解している。 ・桃山文化が幅広い国際性をもちつつ、生活文化の中にとけ込んでいったことについて、諸資料から情報を読み取り、理解している。 【思考・判断・表現】 ・織豊政権の諸政策の目的や、ヨーロッパ諸国の進出がアジアに与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ・豊臣政権による朝鮮出兵やヨーロッパ勢力との接触による南蛮文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		6
	定期考査			○	○		1
	Ⅲ部　近世 第９章　幕藩体制の成立と展開 【知識・理解】 ・江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を理解する。 ・被支配身分の特質や、周縁部分に生きる人々の社会的役割について理解する。 ・諸藩における政治の安定化や刷新について、その特色を理解する。 ・全国市場の確立や都市の発達で商品流通が拡大し、各地で風土に応じた特産物が生まれたことを理解する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことについて、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。 【思考・判断・表現】 ・江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではないことを理解し、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ・幕藩体制の確立期の経済・社会を、兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ・幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 ・儒学の特色を理解し、その発達が他	【指導事項】 Ⅲ部　近世 第９章　幕藩体制の成立と展開 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・技能】 ・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、諸資料をもとに江戸幕府の法や制度の確立や対外政策の推移について理解している。 ・幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 ・産業の発達、交通の整備や貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都に関わる諸資料から情報を読み取り、技術の向上と開発の進展について理解している。 ・都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、17世紀の文化の特徴などについて、諸資料から情報を読み取る技能を身につけている。 【思考・判断・表現】 ・織豊政権と幕府の支配の構造の相違点や、江戸幕府による貿易統制の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。 ・戦乱のない時代が創出されたことの意義を踏まえ、人々の生活や意識がどのように変化したのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・陸上・水上における交通や流通の発達と、農業・工業・商業などの発達との関連を多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。	○	○	○	25

	Ⅲ部　近世 第１０章　幕藩体制の動揺 【知識・理解】 ・幕府や藩の支配に対しておこなわれた百姓一揆や、都市の打ちこわしの実態について理解する。 ・欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を理解する。 ・都市の民衆を中心とする芸能などが盛んになったことを理解する。 【思考・判断・表現】 ・農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩がおこなった諸改革の意義とその影響を考察する。 ・近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 ・化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	【指導事項】 Ⅲ部　近世 第１０章　幕藩体制の動揺 ・幕政の改革 ・宝暦・天明の文化 ・幕府の衰退と近代への道 ・化政文化 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・幕府・諸藩の経済的窮乏、百姓一揆・打ちこわしの頻発などに関する諸資料から情報を読み取り、享保の改革や田沼時代の諸政策の意義について理解している。 ・列強の接近にともなう事件や幕政改革に関する諸資料から情報を読み取り、幕府権力が衰退する一方で工場制手工業など近代の萌芽がみられ、雄藩が出現する過程を理解している。 ・政治・経済と文化の関係などに着目して、19世紀初期の経済の動向や江戸を中心とする庶民文化の形成について理解している。 【思考・判断・表現】 ・商品作物の栽培や貨幣経済の浸透により、米作を基盤とする幕藩体制が動揺する過程を踏まえ、飢饉や一揆の発生が幕藩体制に与えた影響を考察し、表現している。 ・幕藩体制の動揺と文化の展開との関連性について、諸資料から読み取れる情報をもとに多面的・多角的に考察し、表現している。 ・近世の前半と後半を比較し、文化への影響力をもつ地域や担い手の変化をもたらした原因について多面的・多角的に考察し、表現している。				
	定期考査			○	○		1

2学期	Ⅳ部　近代・現代 第１１章　近世から近代へ 【知識・理解】 ・江戸幕府の威信低下と雄藩の台頭について、政治情勢の変化と列強の動向を関連させて理解する。 ・幕末の動乱における天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから幕府の滅亡、旧幕勢力の一掃に至るまでの経過を理解する。 【思考・判断・表現】 ・国際社会に組み込まれるという国際環境の変化に着目して、日本の開国を社会・経済面での変化と関わらせて考察する。 ・近世から近代への変化について考察し、時代を通観する問いを表現する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１１章　近世から近代へ ・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府の発足 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、江戸幕府が対外政策を転換して開国に至る経緯などを理解している。 ・政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、諸資料から適切に情報を読み取り、幕藩体制の崩壊と新政権の成立について理解している。 【思考・判断・表現】 ・日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・日本がどのような契機によって近代的な社会の形成に向かっていくことになるのか、近代の特色を探究するための時代を通観する問いを表現している。				
	Ⅳ部　近代・現代 第１２章　近代国家の成立 【知識・理解】 ・明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、政治的変革と国家的統一過程を理解する。 ・欧米文化・思想の導入と近代化政策に対する士族反乱・農民一揆の発生と、言論闘争への転換を理解する。 ・大日本帝国憲法の性格について具体的・多角的に理解する。 【思考・判断・表現】 ・明治初期の対外政策について、欧米への対応とアジアに対する外交政策の違いについて考察する。 ・政府の強力な中央集権体制への志向のもとで、自由民権運動の始まりから立憲国家の成立に至る間、近代国家の基盤が形成されていく過程を考察する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１２章　近代国家の成立 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 ・諸資料から読み取れる地域社会の変化に着目して、自由民権運動の展開や大日本帝国憲法の制定と議会開設に至る過程を理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸制度の改革が地域社会にもたらした変化や諸外国と結んだ条約の相互比較、欧米の思想・文化の影響などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・国内体制を欧米の水準に合わせることが改革の前提にあったことを踏まえ、社会構造の変化や地方自治の展開について多面的・多角的に考察し、表現している。				
	Ⅳ部　近代・現代 第１３章　近代国家の展開 【知識・理解】 ・東アジアをめぐる国際環境が変容する中、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程や、朝鮮問題から日清戦争に至る経緯について理解する。 ・第一次世界大戦前後の政治の動向および対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて理解する。 【思考・判断・表現】 ・開戦に至る国際関係や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進について、諸外国の動向と関連づけて考察する。 ・第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関係や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 ・民主主義的風潮による社会運動の動向を理解するとともに、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１３章　近代国家の展開 ・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・日清・日露戦争の前後における条約改正の完成、韓国併合や満洲への勢力拡張などについて諸資料から情報を読み取り、この時期の戦争の様相や背景、日本の国際的地位の変化を理解している。 ・第一次世界大戦が日本に及ぼした影響に着目して、大戦後の国際的な協調体制における日本の立場や対外政策の変化について諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 ・ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 【思考・判断・表現】 ・大戦中の日本の動向を踏まえ、中国や朝鮮をはじめとするアジア近隣諸国民が日本の対外姿勢をどのように受け止めたのかを多面的・多角的に考察し、表現している。 ・大戦後に国民の権利の拡大がもたらされたことを踏まえ、国際的な反戦意識や国際的な民族運動の高揚について多面的・多角的に考察し、表現している。	○	○		30
	Ⅳ部　近代・現代 第１４章　近代の産業と生活 【知識・理解】 ・日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して理解する。 ・義務教育の普及・定着とともに、国家主義的教育が浸透していくことを理解する。 【思考・判断・表現】 ・伝統的な文化のうえに欧米文化を摂取するなど二元性をもって成立した近代文化の特色について、政治・経済・外交などの視点をもって考察する。 ・労働者や都市中間層の拡大による大衆社会の基盤の成立に着目し、都市化や市民生活の変化を踏まえて、大衆文化の特色について考察する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１４章　近代の産業と生活 ・近代産業の発展 ・近代文化の発達 ・市民生活の変容と大衆文化 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・産業の発達の背景と影響などに着目し、諸資料から産業革命の展開について適切に情報を読み取り、地域社会における労働や生活の変化が社会問題を生み出したことを理解している。 ・学問・芸術・出版・マスメディアの発展について諸資料から情報を読み取り、欧米文化との関わりとその浸透度、社会風潮との関連を理解している。 【思考・判断・表現】 ・学校教育の必要性の説かれ方や、学校教育の内容と地域社会の変容、国民意識との関係について、近代文化の形成を踏まえて考察し、表現している。 ・都市の発達、鉄道・駅の設置やその影響、工場の増加や生活の変化など、地域社会の変容について多面的・多角的に考察し、表現している。				

3学期	Ⅳ部　近代・現代 第１５章　恐慌と第二次世界大戦 【知識・理解】 ・戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。 ・日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について理解する。 【思考・判断・表現】 ・社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１５章　恐慌と第二次世界大戦 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・国際社会やアジア近隣諸国との関係に着目して、日本で連続した恐慌と政府の対応などに関わる諸資料から情報を読み取り、恐慌と国際関係について理解している。 ・政治・経済体制の変化に着目して、満洲事変に際しての世論や軍部の直接行動に関連する諸資料から情報を読み取り、軍部の台頭と対外政策について理解している。 【思考・判断・表現】 ・当時の社会が抱えた矛盾と満洲事変などの対外政策、国内での軍部の政治的進出などの諸事象を相互に関連づけて多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・日中戦争から太平洋戦争に至る過程や日本政府の対応を考察することを通じて、第二次世界大戦期の国際関係について主体的に課題を追究しようとしている。				
	定期考査			○	○		1
	Ⅳ部　近代・現代 第１６章　占領下の日本 【知識・理解】 ・戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策および戦後の民主化政策とそれにともなう諸改革について、その経過と内容を理解する。 【思考・判断・表現】 ・戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を考察する。 ・連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結して日本が独立した意義を考える。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１６章　占領下の日本 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・第二次大戦前後の政治や社会の類似と相違などに着目して、戦後の諸改革の内容と日本国憲法の制定に関わる諸資料を読み取り、占領政策と諸改革について理解している。 【思考・判断・表現】 ・地域社会の変容にも留意しながら、占領の前後の社会や思想・文化などを比較・考察し、その結果を根拠を明確にして表現している。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・現代の日本との関係性を踏まえながら、占領期における諸改革が生み出した成果と課題について、主体的に追究しようとしている。				
	Ⅳ部　近代・現代 第１７章　高度成長の時代 【知識・理解】 ・独立後の日本国内政治について、衆議院を保守・革新の二大勢力が占める55年体制の成立から安定した保守政権となるまでの経過を理解する。 【思考・判断・表現】 ・冷戦構造の中で日本が国際社会に復帰したことについて、日本の国際連合への加盟、アメリカ・中華人民共和国・大韓民国との関係に着目して、独立回復後の日本の動きを考察する。 ・朝鮮特需による経済復興とその後の高度経済成長について、経済の国際化と国内の技術革新などの側面に着目して考察する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１７章　高度成長の時代 ・55年体制 ・経済復興から高度経済成長へ 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・冷戦やグローバル化の進展の影響などに着目して、戦後の日本経済の成長や高度成長期の国民生活や地域社会の変化に関わる諸資料から情報を読み取っている。 【思考・判断・表現】 ・日本の経済復興や高度成長を国際関係から関連づけたり、様々な社会問題の発生について多面的・多角的に考察したりして、その結果を表現している。	○	○	○	19
	Ⅳ部　近代・現代 第１８章　激動する世界と日本 【知識・理解】 ・ドル＝ショックや石油危機を踏まえて、主要先進国首脳会議が開かれた意義を理解する。 【思考・判断・表現】 ・冷戦体制の終結とそれに関わる国内の状況について、日本の政治・外交・経済・生活文化面を踏まえて多面的・多角的にとらえる。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・科学技術・産業の発達によって派生する環境問題やエネルギー問題などの日本の課題とそれに対する日本の役割を認識する。	【指導事項】 Ⅳ部　近代・現代 第１８章　激動する世界と日本 ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容 【教材】 ・高等学校　日本史探究（第一学習社） ・一人１台端末の活用	【知識・理解】 ・冷戦終結後の国際関係、55年体制が崩壊した政治状況、バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・国連平和維持活動への対応や経済不況に対する国内改革など、冷戦終結後の日本が抱える課題について多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。 【主体的に学習に取り組む姿勢】 ・冷戦終結後の国際社会において日本がどのような役割を果たしてきたのか、自ら課題を見出して主体的に追究しようとしている。				
	定期考査			○	○		1
						合計	
						140	